

ななくり

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム広報委員会編集 発行人：渡邊 正
〒514-1295 三重県久居市大鳥町向広4 2 4 - 1 TEL059-252-1555
ホームページ<http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL4/>

残暑も少しずつ遠のき、秋の気配を感ずるこの頃となってまいりました。皆様にはいかがおすごしでしょうか。

さてこのたび七栗サナトリウムでは、患者様、ご家族そして地域の皆様との交流のひとつとして、広報誌を発行することにいたしました。

当院からのお知らせや病気の治療や予防のこと、医療や福祉の問題、そして皆様から頂いたご意見（辛口でも甘口でも結構です）などを載せていきたいと思っています。今後とも質の高い医療をめざしますとともに、地域の皆様にしたしんでいただける、開かれた病院になりますよう、紙面の充実に心がけていきたいと思っております。



病院長 渡邊 正

リハビリテーション科の仕事



皆さんにリハビリテーションの印象を聞きますと、動かなくなった手足を動くようにする、とのお返事が多く戻ってきます。実際そうなのでしょうか。七栗サナトリウムのリハビリテーション科に入院している患者さんの8割は脳卒中（脳梗塞や脳出血）でからだの片側が動きにくくなっています。リハビリテーション科では、これらの方々に対し、少しでも麻痺した手足が動きやすくなるような努力もいたします。しかし



脳卒中の麻痺は、脳細胞の一部が死んでしまったために起こったものですので、回復には限度があります。そうになると、何をすることがリハビリテーションなのでしょうか。

リハビリテーションでは、残された機能を最大限に活用する方法を練習で習得して貰います。麻痺があっても、反対側の手を活用すれば、食事をしたり、着替えをしたり、顔を洗ったり出来ます。また、片足の動きが不十分でも、足にはめる装具を使ったり、両足のバランスをうまく取ることで、歩けるようにもなります。さらに麻痺のない側の筋肉は使われないために弱っていますが、その筋肉を使わせることで再び力がついてきます。

このような練習を企画し、一緒に実行するのがリハビリテーション科の仕事です。

何かご相談がありましたら、遠慮無く
リハビリテーション科の外来を訪ねてください

リハビリテーション科 教授 園田 茂



病棟の理念

患者様の安全を第1に考えます。

私たちは、患者様が毎日、心豊かに過ごせるような環境作りに取り組み現代の家族構成を考え介護指導、支援活動に貢献します。

当大学病院にも
療養型病棟

が開設されました

平成13年4月オープン。

病床数は40床

3人部屋 10室、

2人部屋 2室、

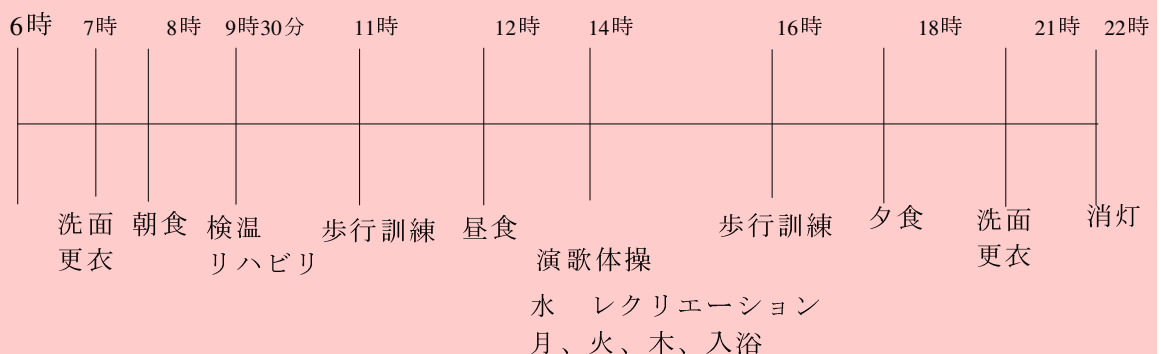
個室 6室

療養型病棟ってどんなところ

看護婦7名、介護福祉士5名、診療補助2名で患者様の看護、介護にあたっています。

当病棟は他病棟（他院）での急性期療養を終え、病状が安定していても継続的に医療を必要とされている患者様に安心して療養していただけるような病床空間を提供します。

療養型病床の入院患者様の1日の流れ（例）



外来 担当医師 及び 検査実施日

	月	火	水	木	金	土
内科 午前	山本医師	浅井教授	山本医師	三浦講師	三浦講師	木股医師
午後	木股医師	浅井教授	木股医師	三浦講師	木股医師	—
外科	渡邊教授	村井医師	吉田講師	渡邊教授	岡本医師	吉田講師
リハビリテーション科	鈴木医師	園田教授	花村医師	米田医師	岡崎医師	関 医師
東洋医学午前	栗岡講師	栗岡講師	—	栗岡講師	栗岡講師	栗岡講師
午後	栗岡講師	栗岡講師	—	—	栗岡講師	—
検査	内視鏡検査	心臓超音波	健康診断	腹部超音波	腹部超音波	—
放射線科	CT	CT	消化器検査	CT	CT	—

年間行事

七夕会（7月ごろ）
 秋の作品展（10月ごろ）
 クリスマス会（12月）
 地域講演会（年4回）

その他、演奏会など

皆様からのご意見、
 ご感想、投稿など掲載していきたく
 思いますのでお寄せく
 ださい。

お寄せ先は検査室の
 検査技師にお渡し
 ください
 よろしく願いいた
 します。編集者一同

編集後記

今回、初めて編集に取り組み難しいことが大変多く、発行までにかかなりの
 時間がかかりました。

何分不慣れな職員が中心となって発行していきますのでお見苦しい点が多々ある
 と思いますが、この紙面が患者様と病院をつなぐ情報発信局となれるように
 今後も一生懸命がんばって編集していきますので患者様のご協力とご助力を
 お願いいたします。

編集責任者 井谷功典